

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年1月18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490101064		
法人名	株式会社ニックス		
事業所名	グループホーム金太郎		
所在地	〒732-0045 広島県広島市東区曙一丁目1番20号		
自己評価作成日	R3.12.14	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490101064-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490101064-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和4年1月18日(火)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりが先の楽しみ、生きがいを持てるようにイベントレクの告知、レクの内容やフロアの飾り付けに力を入れています。  
また、本人のペースに合わせて支援するように心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム金太郎は、広島駅に近く、近隣には、特別養護老人ホームや薬局・耳鼻咽喉科・歯科医が有り、お寺や公園、タクシー会社、バスの駐車場、住宅街がある便利な所に位置している。職員は、コロナ禍での利用者の気分転換や楽しみ毎のレクリエーションの工夫、行事の提案を全職員で話し合い、利用者が楽しく、安心して生活出来ると共に、利用者一人ひとりの楽しみ毎や活動出来る場面を多く作り、張合いのある日々が過ごせるように支援している。日常生活の中での利用者との関わりを大切にし、利用者の思いの把握に努め、不安な気持ちを訴えられる利用者の家族と相談し、利用者の思いに寄り添い、利用者一人ひとりに添った支援に努めている。事業所では、集合しての内部研修開催が困難な状況にあっても、資料を閲覧する事や、インターネットでの自己学習を勧めており、検討事項があれば一緒に考える等の研修体制を確立している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	コロナ禍以前はボランティアの方をお呼びし交流があったが、現在はコロナ禍の影響で11月まで面会等を禁止しており交流が出来ていない。	運営理念「相手本位の心」行動目標・社員行動規範を職員休憩室に掲示し、職員は出勤時と休憩時間に目を通し、職員間で共有して、実践に活かしている。又、月1回のミーティング時に、管理者と共に理念を振り返り、会議時にも触れ、その理念を共有して実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍以前は地域のイベントに参加していたが、現在は感染症対策の為参加できていない。	町内会に加入しており、例年は地域の方に、クリスマス会に参加して頂いて、交流していたが、コロナ禍で地域の方との交流が制限されている。近隣の散歩時には、地域の人と気軽に挨拶を交わしたり、幼稚園児とすれ違い挨拶したりして、交流している。今後、コロナ禍が終息したら、町内のボランティアの方や幼稚園児に来て頂き、交流したいと思っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々と直接お会いする事がなくなり出来ていない。 コロナ感染状況の様子を見ながら今後取り組んでいく。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は開催出来ていないが、活動状況報告書をお配りし、意見を頂いている。 コロナ感染状況の様子を見ながら再開を検討する。	新型コロナ感染予防の為、運営推進会議は年6回、書面での開催としている。参加者には、電話で意見や要望を聞き、自主開催している。運営推進会議の記録(利用者の状況、日々の活動、自己評価及び外部評価、参加者からの意見等)について、検討し知らせしている。コロナ禍の終息後は、地域包括支援センター職員、家族、町内会長、地域代表、民生委員、幼稚園、お寺、コンビニ店長等に参加頂き、開催したいと思っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	報告書を直接提出し、施設の状況を説明する様にしている。	市の担当者とは、電話や直接出向いて、介護保険更新時や運営推進会議資料を届けて、相談したり助言を得て、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、電話やファックス、直接出向いての情報交換や相談で、連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が必要かどうかを考え、個人の判断では身体拘束をしない様にしている。 2か月ごとに適正の可否について話し合いを実施している。	職員は、内部研修で身体拘束について学び、正しく理解して拘束をしないケアを実践している。又、「身体拘束等の適正化を図る為の検討委員会」を3ヶ月に1回開催し、職員は身体拘束や弊害について学び、身体拘束のないケアに取り組んでいる。外出したい利用者には、職員と一緒に外気浴・日光浴等で気分転換を図っている。スピーチロックについては、管理者がその都度指導し、職員間でもお互いに注意し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修や、ミーティングを行っており、職員全員理解している。			

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。</p>	<p>成年後見制度について学ぶ機会を設けていなかった。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者や家族の疑問点には、理解と納得いただけるまで説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議を実施し、意見を伺い、要望があれば改善する様にしている。</p>	<p>面会時や、月1回の事業所だより送付時、電話、メール、テレビ電話等で、家族からの意見や要望を聞く機会を設けている。家族の安心感を得る為に、予約による居室での15分以内の面会を実施してみる等、家族の要望を運営に反映させている。家族が体調を崩した場合や、冠婚葬祭の緊急時用に、2室確保している。(コロナ禍の為中止している)</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティングや個別での面談を含め、聞く機会を設け少しずつ反映されている。</p>	<p>管理者は、毎月のミーティング時や、3ヶ月毎の個人面接で、職員の意見や要望を聞いている他、半年毎の目標の評価をしている。朝夕のミーティング時等、日常業務の中でも、意見や要望、提案等聞き、検討して運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者が直接職員の意見に耳を傾けて、職場環境の改善を行って頂いている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>社内研修の開催やスキルアップ支援を行って頂いている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>外部の研修参加に対して補助を出して頂いたりと支援して頂いている。</p>		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に本人、ご家族様から要望を聞き対応し、職員に情報を提供し周知を測っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前のモニタリングや施設見学で実際に施設をご覧頂き、不安解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネを含めて事前に支援を確認し、その都度必要な支援を受けれる様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活において、出来る事は共に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は利用者の思いを管理者に代弁し、管理者を通じて、関係を築いている。 希望される場合は直接電話等で話し合いをして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている。	コロナ禍で外部との関りが難しい中、電話(テレビ電話も含む)で関係の継続に努めている。	家族との面会や、孫や知人からの年賀状でのやり取りや、携帯電話、タブレットによるズームの取次ぎの支援をしている。親族の葬儀に参加したり、病院へ受診に行く場合、家族と面会している。コロナ禍で面会も難しい中、出来る限りの支援で、馴染みの人や場所との関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う方や、出来る事が同じペースの方の座席配置にし、協力し合える様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後に支援を行う事はなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員本位ではなく本人のペースに合わせることに努めている。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情、行動をタブレットに記録している他、利用者が安心して自分の思いを職員に伝えられる関係が築けるように取り組んでいる。利用者の思いは、「寿司が食べたい」「甘い物が食べたい」等あれば購入して、食して頂いている。困難な場合は、家族に聞いたり話し合っ、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	管理者の情報を基に、職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝、夕の申し送りにより、その日の状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネ、管理者、職員で介護計画について、意見交換を行いながら作成している。	6ヶ月毎に、カンファレンスとモニタリングを実施して、利用者の状態や、課題目標の実施状況や達成状況、新たな課題・問題点等を話し合い、本人の思いや家族の意向、医師や看護師、管理者の意見を参考にして話し合い、介護計画の見直しを行っている。利用者の状態の変化に応じて、その都度検討し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	気付いた事は個別にノートに記入し、申し送りやミーティングで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	福祉用具での支援を相談し、ご家族様の負担にならない様活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ渦以前は、外部との関りを持っていたが、コロナ渦後は難しくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と施設の主治医との連携を密にし、支援を継続している。	本人・ご家族の同意を得て、協力医療機関をかかりつけ医としている。かかりつけ医は2週間に1回往診が有り、訪問歯科は毎週末、希望者は受診している。他科は、家族に受診をお願いしている。無理な場合は、職員が対応している。休日夜間や緊急時には、協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。	

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員に日常での気づきを報告し、管理者と共に主治医に報告し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先に利用者の情報を提供し、病院からの相談にも適切に対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事前に支援についての説明と確認を行っている。	契約時に、「重症化した場合の介護についての同意書」に基づいて、事業所で出来る対応について家族に説明している。実際に重症化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医、看護師、家族、管理者、職員等の関係者と話し合い、事業所で出来る事を十分説明し、本人・家族の望む移設(病院・他施設)を含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。看取りは行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	その場その場での対応の指示は行っているが、定期的な訓練は出来ていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回避難訓練を行い、1度は消防署の方をお招きし、施設の状況を説明している。	年2回避難訓練を実施しており、2回とも消防署参加で、昼夜、火災と風水害を想定した訓練を行っている。避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方を利用者也参加して実施している。町内会とも協力体制を築くよう取り組んでいる。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士で接遇について適切に行えているか声掛けを行っている。	管理者は、日頃から言葉かけ時(スピーチロック)の声のトーンに配慮するように伝えている他、職員は内部研修でも学んでおり、人格の尊重とプライバシーの確保について、正しく理解し、適切な言葉かけと対応をしている。個人情報の取扱いに留意し、守秘義務は遵守している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日頃から利用者とのコミュニケーションを測り、本人が希望を伝えやすい様な関係作りを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の要望によっては入浴日を柔軟に変更したり、その日の希望に沿える様に支援している。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合わせて衣服を調整し、訪問美容を活用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的なイベントの際は、メニューを一緒に考え、準備を一緒に行っている。	3食とも配食業者に依頼しており、朝食・昼食は普通食で、夜は弁当形式にしている。御飯とみそ汁は、事業所で作っている。行事食として、お節・敬老会・ひな祭り・七夕・誕生日の特別食(麺類)等を食され、季節感を感じている。食の形態は、利用者の様態に合わせて、キザミ食・ソフト食・トロミ食・ミキサー食等、利用者の咀嚼の状態に合わせて、対応して提供している。おやつ作りは、ケーキ、ホットケーキ、ピザ等を作り、楽しまれている。テイクアウトで、寿司やマックのハンバーグを食されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者1人1人に応じた食事形態やカロリーで支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行い、義歯のある方は着脱を確認し、支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録を確認し、声掛けを行い、トイレ誘導を行い、清潔に保てる様に支援している。	排泄チェック表を活用して、排泄のパターンを把握すると共に、本人からのサインを見逃さないようにし、さりげない形でプライバシーに配慮しながら、一人ひとりに合わせた言葉かけで誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。排泄の難しい人には、薬による排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し、適切な運動を日々の生活に取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	職員が声掛けを行い、本人の意向に沿わない時は、時間や曜日を変更し、本人の希望に沿って温度調整を行っている。	入浴は週2回で、利用者の体調によって、機械浴・清拭、シャワー浴、部分浴にて、個々に応じた入浴の支援をしている。好みの湯加減で、職員と話しながらゆっくりと入浴を楽しんでいる。入浴したくない人には無理強いせず、時間を変えたり、言葉かけの工夫をして、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の意向に沿って休息をとり、居室内の温度を調整し、環境作りを行っている。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の変更がある時は看護師から報告があり、説明を受け、変更を報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	毎月1回はイベントを行い、日々の生活に変化をもたらし、気分転換を測っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍以前は外出や散歩を行っていたが、現在は感染対策の為に行っていない。	新型コロナウイルス感染症予防の為、以前は良く出かけていた、コンビニや公園への散歩は控えている。体調や天気の様子を見て、近場の公園に散歩に出かけたり、町内を1周したりして、ストレスを発散している。事業所内のプランターに季節の花を植えており、日光浴や外気浴を楽しまれ、水やりで身体を動かし、季節を感じられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設で管理し、必要に応じて使用できる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状を差し出したり希望があれば御家族と電話やテレビ電話でやり取りをしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	全ての場所で一定の明るさを保ち、温度調整を行っている。季節感のある壁紙を利用者と作成している。	リビングは、窓も大きく開放的で、日差しが入りとても明るく、テーブルや椅子、ソファが配置してある。壁には、利用者と職員と一緒に作った季節の作品（お花紙で雪だるま・虎の顔等）を飾っている。又、書初めやカレンダー、折り紙や貼り絵を掲示している。台所からご飯を炊くにおいや、みそ汁を作る臭いがして、生活感を感じる事が出来る。加湿器を設置し、温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座席を完全には固定せずに、好きな場所で過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで、利用者が使用していた物をご持参頂き、安心して過ごして頂いている。	入所時には、利用者が使い慣れたタンス、椅子、テーブル、テレビ、ハンガーラック、衣装ケース、仏壇、時計、化粧品、雑誌、ぬいぐるみ等を持ち込み、家族写真やプロマイド、家族からの置物等を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	



グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>不要な物は動線外に片付け、安全に生活できる様に支援している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム金太郎

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を休憩室に貼り、常に確認しながら実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ渦以前は地域のイベントに参加していたが、現在は感染症対策の為参加できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々と直接お会いする事がなくなり出来ていない。 コロナ感染状況の様子を見ながら今後取り組んでいく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は開催出来ていないが、活動状況報告書をお配りし、意見を頂いている。 コロナ感染状況の様子を見ながら再開を検討する。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	報告書を直接提出し、施設の状況を説明する様になっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束が必要かどうかを考え、個人の判断では身体拘束をしない様になっている。 2か月ごとに適正の可否について話し合いを実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待についての研修や、ミーティングを行っており、職員全員理解している。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見制度について学ぶ機会を設けていなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者や家族の疑問点には、理解と納得いただけるまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議を実施し、意見を伺い、要望があれば改善する様にしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングや個別面談を通じて意見や提案を聞き、実行に移している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の働き方に対して希望を聞いて下さり、働きやすい環境を作って下さっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社時に新人研修を行い、現場でも新人研修ノートを活用している。又、社内研修や資格取得の支援をして下さっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部の研修に参加する機会を頂き、そこで交流を深めている。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前にケアマネを含めて面談をする事で不安を解消し、施設での生活のイメージをして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	施設見学や事前の面談を行い、入所に至る経緯等を伺い安心して頂ける様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	モニタリング表に沿って支援を行い、必要に応じて他職員とも連携している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員は利用者の仕草や態度、言動から察し、傾聴する事で信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族からの要望に対して管理者を通じて職員に報告し、日々の様子を定期的に連絡している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ渦以前は家族の意向に配慮し面会を行っていたが、現在は感染対策の為に出来ていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者のADLに応じた席の配置にし、お互いがコミュニケーションをとれる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	施設での契約が終了する時は、次の担当の方へ施設での情報を報告している。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いをケアカンファを行い、職員間で共有しケアに努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	職員が1人1人が事前情報を基にケアを行い、実際のケアの中で得た情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	体操やレクリエーションを通じ残存能力を確認し、日々の生活に活かしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	施設での様子や利用者からの要望を担当職員がモニタリングを行い、ケアマネに報告し、家族からの要望をケアマネを通じ職員を連携している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の細かい変化について記録に残し、申し送りやミーティングで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族や主治医の要望があれば外部からの訪問マッサージなどを活用し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	訪問美容を利用したり、消防の方をお招きし、利用者と一緒に避難訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医療機関以外での受診を希望される場合は紹介状を依頼し、情報を共有している。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の変化を介護職員、看護職員、管理者、主治医へと報告し、家族に支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院先には利用者の施設での情報を提供し、退院後の生活を確保している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に家族等と終末期について確認し、変化に応じて確認している。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時のマニュアルがあり、マニュアルに沿って対応している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>消防署の方を施設にお招きし、施設の情報を共有し、協力体制を築いている。</p>		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>利用者1人1人の尊厳を大切に言葉かけをし、職員間でも徹底している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	<p>利用者の意向に沿った支援を行い、意向に沿わない事はしない様になっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>利用者のその日の状態や希望を優先し、共に施設で過ごせる様にしている。</p>		



グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の選択は本人の決定を尊重し、訪問美容を依頼し、清潔に保つ様になっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の好みを事前に伺い提供し、その都度変化に対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者1人1人に合わせた食事形態にし、残存能力を活かした摂取方法をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	定期的な訪問歯科により口腔状態を確認し、口腔ケア後も職員で確認している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失敗した場合は羞恥心に配慮した言葉かけ介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取を促し、日常的にニックス体操等、程度の運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	1人1人の体調に合わせて入浴できる様、曜日に捉われず支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間を固定せず、状態に応じて就寝介助を行い、居室の温度管理を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内容が変わる時は、看護職員から申し送りがあり、変化がある時は報告している。		

グループホーム金太郎

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>利用者の嗜好品について家族と協力し、支援し、月1回は希望に沿った行事を行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ渦以前は家族と協力し、外出支援を行っていたが、現在は感染症対策の為行っていない。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>お金は施設で管理しているか、必要に応じて使用できる様にしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>携帯電話を使用し、連絡をとったり年賀状をやり取りをしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>動線上に不要な物を置かず、安心して生活出来る様にし、季節に応じた飾りつけをしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者同士で自由に会話できる様に席の配置に捉われず過ごして頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今まで使用していたタンス等を持参頂き、居室には好みの物を置いて頂いている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>手すりの設置や引き戸にして安全に配慮し、事故防止に努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム金太郎

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム金太郎

作成日 令和4年1月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	48	コロナ禍において、施設内でのイベントに、制約がある。	御利用者様に楽しんで頂く。	現状で出来るイベントを考え、実行する。	12ヶ月
2	3	運営推進会議を開催出来ていない。	御家族様に施設での様子をより、御理解して頂ける様にする。	活動状況報告書の内容を見直し、充実を図る。	12ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。